

28 化繊織物の強伸度について

三重大学芸 薄田 京子

1 化学繊維は近来急速に進歩発展して我々の衣料用繊維としての用途を拡充しつつあるが消費過程における衣料としての性能の良否、着用結果等については明確でない場合が極めて多い。本研究においては化繊織物の衣服としての性能や用途を明かにするための一資料として衣服として要求される各種性能のうち、特に強度並に伸度、吸水量、柔軟性、防皺度等について市場商品の全般的な調査を試みた。

2 試料は化繊織物の中から主として春秋並に冬季衣

料として比較的厚地のもの種を選出し上記諸項目の測定を行い天然繊維との比較を行った。

3 (1) 強度 天然繊維は一般に緯布の強力が低いが化繊布 38 種についても同様の傾向が認められた。試料中 8 種は、緯強力は経の 2/1 以下であって、これらは特定の繊維に限定されないが被服の耐久性の見地から考慮を要すると思われるものは薄地のシャツ地及び裏地に供せられるベンベルグやアセテート混紡タフタ等である。湿潤による強力の低下はビニールレザーを除いたすべての試料に認められ特にレーヨン類にその傾向が著しい。

(2) 伸度 天然繊維におけると同様化繊布においてもレーヨン並にその混紡品数点を除き大体の傾向として湿潤時における伸びの増大がみとめられた。(3) 防皺度 化繊布中ナイロン、テトロン、テトロンウール混紡等においてウールに必敵する防皺性を示した。